

●自己評価●

～*給食総評*～

食育計画を細かく立てたり、給食職員間での話し合いや担任との個別のやり取りは十分に行うことが出来ている

出来る範囲で個々に対応した給食を提供するようにしているので、積極的に食事の様子などもみていくことで、さらに保育室との連携を深め、質の向上が目指せると考える。

食を通しての保護者や地域支援への評価の低さが目立つ。様々な視点から、保育所で出来ることを職員間で話し合ったり、どのような活動が支援に繋がっていくのか、現場で出来ることを見つけていくことが必要である

～*保育総評*～

・日々の保育をそれぞれが責任をもって担っていることが結果から分かったが、さらに保育を深めるためには、現在の保育指針を丁寧に読み返し、専門家としての知識をもとに保育を行うことの重要性を職員全員が理解することが大切だと感じる

その方法として誰もが参加、受講しやすいような会議や園内研修、自主研修等を充実させる為の計画や工夫が必要である。

『配慮を必要とする子』への支援などは、職員間の考え方や支援方法の違いへの戸惑いがみられる為、知識や理論に基づいた話し合いを行い、常に現状を振り返り、話し合い、見直していく事で、より質の高い保育が提供されるようになっていくと思われる。

『努力が必要』が多かった項目全般に通じるが、現状の保育からさらに踏み込み、専門職としての知識を身につけることを継続し続け、視点を変えて保育を行う事で新たな課題が見えてくると感じた